

2025/03/20 物理学会領域 10 インフォーマルミーティング

日時：2025 年 3 月 20 日(木) 18:00～

Zoom 開催

#### 参加者：

三原基嗣(代表、X 粒- $\mu$ ・大阪大)、筒井智嗣(副代表、フォノン・JASRI)、中島宏(連絡、電・大阪大)

誘電体：深田幸正(JAEA)、桑野太郎(東京科学大)、永井隆之(東大)

格子欠陥：橋本由介(奈良先端大)、小林亮(名工大)、田中真悟(産総研)、

西谷滋人(関学)、山崎貴大(東京理科大)

フォノン：島村孝平(熊本大)、松浦弘泰(東大)、金尾太郎(芝浦工業大)、河村光晶(東大)

X 線粒子線：西村龍太郎(X・KEK)、萩原雅人(中・JAEA)、満汐孝治(陽・産総研)、

友野大( $\mu$ ・大阪大)、竹下聡史( $\mu$ ・KEK)

木村耕治(名工大)

#### 1. 代表・副代表・運営委員等の人事

- ・ 現行各委員・次期運営委員より挨拶
- ・ 次期 連絡委員 松浦弘泰 (フォノン分科)
- ・ 次次期運営委員候補の紹介と承認
  - 誘電体：永井隆之(東大)
  - 格子欠陥：山崎貴大(東京理科大)
  - フォノン分科：金尾太郎(芝浦工業大)
  - X 線粒子線 電子線サブ分科：井原史朗(九大)
- すべて承認
- ・ 各分科からの報告
  - ML の登録人数に対して発表件数が少なくなっている分科が多い傾向
  - それぞれの専門に近い学会で発表を行う事が多く、物理学会での発表を見送る傾向にある。改めての呼びかけが必要。
  - Zoom 開催の 때가 極端に数が減る傾向(半分程度)。  
注) どの領域でも同様の傾向であり、領域 10 だけではない。

#### 質問：

X 線粒子線の委員の任期が 1 年半なのはどのような経緯であったか。

→任期は 1 年半まで。過去は物理学会プログラム作成時における会議での旅費などの制約から表の任期と実際の任期を分けるような運用になっている。現状は 1 年の任期→半年後に 1 年の任期で再登録として処理されている。

委員が東京まで行く旅費がかかっていたので過去の経緯としてはその通り。今は Zoom 等でミーティングが行われているので旅費などの制約が無く、格子欠陥等と同様の任期としても良いかもしれない。今後検討。

登録のシステム上の問題かと思われるので、もっとフレキシブルに対応可能かと思われる。

- ・ 81-82 期代議員選挙について  
信任投票が 3/5 終了、結果公開待ち

## 2. 各賞の推薦依頼状況等

特に無し

## 3. 各種データ

領域 10 全体の傾向として、オンラインの発表件数についてはオンサイトの半分になる。  
領域 10 では 57 件の講演があり、56 件の概要集提出があった。

## 4. 若手奨励賞

- ・ 第 19 回日本物理学会若手奨励賞：中村惇平氏
- ・ 任期終了した審査員の公表：領域 10Web に掲載した

## 5. 学生優秀賞発表

- ・ 2024 秋：対象者 11 名、受賞者 6 名
- ・ 全対象者に審査員コメントを返した(了解を得られたもののみ。今後の継続は未定)
- ・ 今回：対象者なし(申請者 12 名)
  - ▶ M1 が多数。次回は多数の応募が見込まれる

## 6. 領域委員会報告

- ・ 大会運営委員会(仮名)の新設と今後の大会開催方法について
  - ▶ 来年度に新設予定の委員会について紹介、活動目的・内容、試行時の議事録等紹介
- ・ 講演申込等のスケジュールの改善について
  - ▶ 講演申込締め切りを 1 ヶ月ほど後ろ倒しに

大会運営委員会(仮名)議事録まとめより

- ・ 当面の間は開催時期を固定(3 月オンライン・9 月年次大会(対面))
- ・ オンラインは「土日祝日を含まない連続した平日 4 日」or「土日祝日を挟む平日 4 日」
- ・ 対面は現地都合を優先し、「極力土日祝日を避ける」ととどめる。
- ・ 今後の物理学会について
  - ① 2025 年 9 月 16 日(火)~19 日(金) 年次大会(広島大学)
  - ② 2026 年 3 月 23 日(月)~26 日(木) 春季大会(オンライン)

③ 2026年9月14日(月)~17日(木)年次大会(東京大学駒場キャンパス)

④ 2027年3月16日(火)~19日(金)春季大会(オンライン)

- ・ 概要集取り扱いの変更
- ・ 講演申し込み時期の調整
- ・ オンライン開催時の学生会員の聴講無料化について
  
- ・ 招待・規格・チュートリアル・シンポジウム受賞講演(計9件)について報告
- ・ その他審議事項
  - ▶ 計算物理領域の試行について:大きな反対は無かったが領域の負担が増えないよう改めて確認。新設の意義ありとして理事会に仮領域として新設を答申
  - ▶ 講演概要の英語化:賛否が分かれたが全体として現状維持・否定的な意見が多い

理事会では審議事項が多く、今後運営委員からの意見聴取なども随時行いたいとのこと

## 7. キーワード「カイラルフォノン」、「カイラル構造」について

- ・ 2024秋IMにて追加決定
- ・ 第3キーワードに追加することを決定

キーワード修正手続き

- ・ 春季・年次で独立して設定。それぞれ1年前に修正を依頼
- ・ 2025年次大会以降追加の予定

## 8. 80周年記念国際シンポジウムに関して

日程・開催地:2026年/09/13 東京大学駒場キャンパス(JPS81の前日)

サテライトセッションを大会期間中(09/14-17)に行う事を計画

### 以下審議事項

## 9. オンライン大会でのポスターセッションの在り方について

2025年1月にアンケート実施

アンケート内質問:

2026年春以降のオンライン大会でのポスターセッションの在り方について

→大会運営委員会:2026年春季大会以降に「ポスター発表に代わる発表形式」の導入を視野に検討

領域内での議論(3/31までに事務局に報告)

意見等:

- ・ 動画などを用意する形だとハードルが高く投稿数が減るのでは。動画作成に関するマニュアルがあればよい。(誘電体IMより)
- ・ ショートプレゼンテーションは良いのでは(教育的効果などの観点から)(フォノンIMより)
- ・ ショートプレゼンテーションを採用する場合、動画で保存して会期中に参照できる環境があると良

い。いつでも見られる点はメリット。

- ・ 実験原子核ではどれぐらいの実績があるのか。
  - ▶ 30 件程度。パラレルセッションでやっている。学生賞審査にも使用している。審査する方は大変な作業がある。件数による。
- ・ ポスターセッションは手間を別にすれば良い。ショートプレゼンテーションは領域ごとで枠が分かれていると重複したときに一方しか聞けない。どちらかだけしか行わない(ある時間は全体でポスターしか行わない等)ようスケジュールを組めると良いのでは。また、ポスターセッションは現場での生のやり取りが重要な要素だが、現状の Zoom のブレイクアウトルームは人と人とのやり取りが生まれにくい。他のツールの併用も検討しては。

## 1 0. 同時翻訳字幕機能の導入について

賛成か反対かでいえば賛成が多い。

領域内で本機能を使ってみた感想などがあれば報告してほしい。

(3/31 まで)

意見等：

誘電体の方で使ってみた方の感想として、話す人の言語のなまり等によってかなり怪しい場合があるとのこと。

別の学会で同様の機能を使ってみた様子では、大まかな内容を知るのには良さそうな印象。使う方にも慣れが必要そう。留学生等の対応として使い様があるのでは。

## 1 1. 計算物理領域との合同セッションの希望に関して

計算物理領域が JPS80 から 3 年間試行期間に入る。

領域の講演数が減らないようにするため、計算物理領域ではすべての講演を合同セッション扱いにする予定

「高性能計算」「計算アルゴリズム」「データ駆動科学」の 3 つについて、「合同領域の希望の有無」について、希望を選択し、4/3 までに事務局まで報告

意見・質問等：

- ・ 無理には合同領域を希望しなくて良いのではという意見もある。
  - ▶ 合同セッションに参加してそちらの枠組みに人が流れてしまうと最終的に領域 10 側から人が減る方向に向かってしまう恐れがあるという事か。
  - ▶ その通り。
- ・ 格子欠陥については、今回の発表を見る限りは新領域が出来た後も格子欠陥側の発表になるテーマが多かったように見えるので、合同セッションにしても数が減る方向に向かう事はないのではないか。
- ・ 数が少なく他の近い分野と合同セッションにしている所があるが、それらがこの計算物理との合同セッションにした場合、近い分野とはバラバラになってしまう恐れがあるのではないかと。

セッションに参加するかどうかのフレキシビリティはどの程度あるのか。

- ・ 誘電体の IM で挙げたのは、「後から合同セッションへの参加は出来るのか。出来ないのであれば今のうちに名乗りを上げておいた方が良いのではないか」「計算物理領域と合同セッションとすることで少なくとも見かけ上はむしろ分科の発表数は増えるのではないか」という意見があった。また、分科内で計算関係に携わっている研究者の意見が得られなかった。
- ・ 計算物理領域の建付け・定義があいまいなため、こちらの回答としても「ここで合同セッション参加を希望しないと今後の参加は出来ないのか。それとも随時参加できるのか」という前提確認を付して回答するべきでは。また分科・手法ごとに事情が違うので、一律に回答出来ない旨と、それぞれの希望を踏まえた上で挙げられている意見を回答として返すべきでは。

→各分科で意見集約して3月中に連絡委員・代表に報告

## 1 2. その他(ML について、企画提案)

- ・ ML の取り扱い・周知について  
運営委員が一括送信できるようにするかどうか？

意見：

提案者だが、現状でうまくいっているようなので現行の方法で良い。

→現状維持の方向で

- ・ シンポジウム等、企画提案  
量子ビームが切り拓くフォノン分散の材料科学(仮タイトル)  
提案：木村耕治（名工大）  
→他のシンポジウム案等との重複無し。承認。次回委員会での提案  
意見・質問等：
  - ・ 金属学会との会期重複は大丈夫か
  - ・ 関連分野の他の学会との重複も要確認では
  - ・ シンポジウムの日程はある程度希望できるはず
  - ・ シンポジウムの募集期日までまだ日があるが、他のシンポジウムが提案された場合等に数の上限があるのか。ある場合今回承認したこのシンポジウムとの間での調整はどうするのか(上限5件?)
  - ・ 領域をまたいだものの方が推奨されるが、早く提案されたものを優先する方向で良いのでは
  - ・ 重複可能性がある分野とはあらかじめ合同シンポジウムの提案をしておいた方が良くもしいない
  - ・ 合同で行う場合はどこかで各領域代表者の承認をもらう必要があるので、あらかじめ話を通しておいた方が良い
- ・ 他
  - ・ (1 1. 計算物理領域との合同セッションについて)計算物理領域の意図がはっきりしていない。

合同セッションの希望に関する回答をする前に計算物理領域側の意図をはっきりさせてもらった方が良い(どういうセッションを想定しているのか等)

- 計算物理領域分野関係者の想定として、元々の分野が素核・物性をまたいでバラバラ・縦割りになっているので、これを横断する(横ぐしを刺す)ものとして合同セッションを考えているとのこと。合同セッションの提案前提の問いかけがぼんやりしているので、こちらから必要な答えが出るように問いかけ直すのが良いのではないか
- 考えている内容についてももう少しきちんと説明してもらわないと回答も難しいかもしれない
- 細目が具体的に必要